

活動報告書

プロジェクト名：AI教師開発

報告対象期間：2026年01月01日～2026年02月28日

作成者：蔭山 優太

プロジェクト概要と活動方針

本期間は、サービスのコアターゲットの明確化、独自性のある機能の策定、およびプロトタイピングによる具体化を重点的に行った。

開発・実装の進捗（1月～2月）

本期間は、以下の技術インフラの刷新および各AI機能の実装を完了させました。

- **Dream Matching** (夢探し機能) の実装: 520職種、28パラメータ(年収、残業時間、やりがい等)に及ぶ独自のデータベースを構築しました。また、ChromaDBとSentence Transformersを用いたベクトル検索(768次元)を実装し、生徒自身も気づいていない職業との意味的なマッチングを可能にしました。
- **Career Chat** (対話エンジン) の実装: AsyncOpenAIとSSE (Server-Sent Events) を用いた非同期ストリーミング通信を実装しました。動的プロンプト注入により、AIがその職業の「中の人」になりきり、人間らしい自然な応答速度でリアルなキャリア対話を行うシステムを完成させました。

最終報告会（2月28日）の実施とフィードバック

2月28日に「2025年度 同志社ローム記念館プロジェクト 最終報告会」にてプレゼンテーションを実施しました。

- ポジティブな評価:
 - 名前だけでなく、イメージや希望から検索できるアプローチは優れている。
 - 見たくないもの(想定外の職業)もあえて見せる仕様は良い。
- 課題と懸念点:
 - 可能性の阻害リスク: システムからの提案によって、逆に生徒の可能性を潰してしまわないか。また、職業を見つけた後に、学校などそれ以外の必要なものを切り捨ててしまわないか懸念がある。
 - 職業の多様性と解像度: スタートアップなど、既存の枠組みに含まれない職種が拾いにくい。また、同じ職種でもレベルによって内容が全く異なるため、一言では言い表せない職業の幅が存在する。
 - ターゲット層: 対象を高校生に限定せず、大学生も含めてよいのではないか。
 - プレゼンテーション: スライドに載せる情報の取捨選択に改善の余地がある。

今後の課題・次年度（Phase 2）に向けたTo Do

- **Phase 2「Dream Action」**の推進: 夢を「知る」だけでなく、地域企業や学習塾と連携した職場見学・体験プログラムを提供し、「行動する」ための環境整備に注力します。
- 地域PMFの確立: 来年度は京田辺市の3塾・10企業との提携を目指し、システムの社会実装を進めます。
- フィードバックの反映: 小林様からのご指摘を受け、職業データベースの柔軟性向上(スタートアップ対応やレベル別の解像度向上)や、提案アルゴリズムの調整、さらには大学生へのターゲット拡大の可能性をチーム内で検討します。

